

# 令和7年産 J A 米コシヒカリ栽培こよみ

●射水市農業技術者協議会  
 ●射水市 ●JA いみす野  
 ●富山県高岡農林振興センター  
 ●高岡地域農業共済センター  
 ●全農とやま

### 収量構成の目安

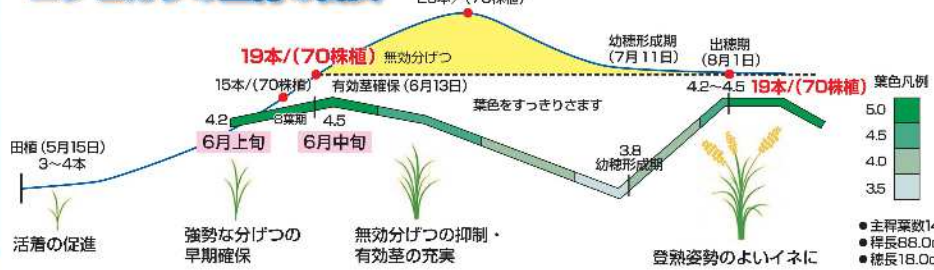
収量 540g/10a

10a当り  
 ㎡当穂数 400本  
 ×  
 1穂着粒数 70粒  
 ×  
 千粒重 22.5g  
 ×  
 登熟歩合 87%

### 最重点技術項目

- 5月15日中心の田植え
- 健苗育成**
- ①育苗日数19日程度
- ②温度管理・換気の徹底
- 70株植・植付深さ3cm**
- 初期茎数の早期確保
- 田植後4週間までの中干し**
- 出穂後20日間の湛水管理**

## コシヒカリの生育の目安



### 消費者に喜ばれる米づくりを!!

- ①品質を重視した米づくり!  
1等米比率95%以上を目指そう!
- ②消費者に信頼される米づくり!  
全量種子更新!  
栽培記録の徹底!  
農薬の安全使用基準の遵守!  
富山県適正農業規範(とやまGAP)の実践!

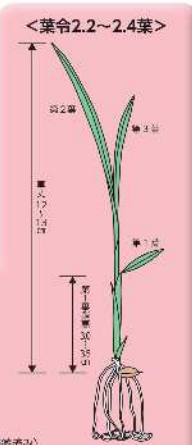
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月			
生育ステージ		播種期	育苗期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期	成熟期
水管理				深水 水深5cm	浅水 水深3cm	深水 水深3cm (除草剤散布の場合)	中干し 幼穂形成期まで短期深さ3cm以下に回める	間断かん水 飽水管理 幼穂形成期以降	出穂後20日間は湛水状態 水深3cm	間断かん水 刈取7日前まで	
管理作業	土壌改良資材施用	浸種 播種 (4/17) (4/25-27)	育苗 育苗期間は18~20日	田植 (5/15)	溝振り (6/10)	中干し(溝の手直し) (6/12)	一斉刈り (7/10)	出穂7日前の葉色の確認 (7/25頃)	1回目防除(出穂期) (8/1頃)	2回目防除(穂揃期・採穂期) (8/8頃)	落水 刈り取り 秋耕・土壌改良資材施用

品質向上のための対策ポイント

### 対策1 土づくり

~異常気象に対応~

- ①土壌改良資材の散布  
・土壌に不足する成分を補うため、粒糞(糞肥)100kg/10a散布。
- ②深耕し  
・現状より3cm深く耕起し、作土深は15~18cm以上を確保する。
- ③有機物の施用  
・稲わら、粉砕は全量すき込む。  
・肥料を混用する。(水稲用のヘアリーベッチ、大豆あとのクロタリヤ)
- ④畦づくり・畦盛り  
・水漏れ防止や20日間湛水に耐えた際の高さの確保。



### 対策3 高温登熟の回避

~5月15日中心の田植え~

- ①田植えは5月15日を中心に行う
- ②直播の導入・拡大  
・田植時期を遅らせたのと同等の効果があります。

### 対策4 初期茎数の早期確保

~しっかりとした良質な穂につなげる~

- ①栽培株数70株/坪
- ②植付本数は3~4本/株・植付深さは3cm
- ③基準施肥量の遵守

地域	肥料特性		分蘖(全量)
	コシヒカリ2号 (田植期・秋播)	高穂206 (田植期)	
新潟県 上越市	28~30	28	15 10
新潟県 長岡市	28~30	28	20~30 10~15
新潟県 小千谷市	28~30	28	28 10~15 10
新潟県 妙高市	28~30	28	28~30

- ④田植後の適正な水管理の徹底  
・活着促進の早期かん水、日中止水による湛水管理の実施。
- ⑤除草剤の適正使用  
・適期を設け、遅れず散布する。  
・田植時で散布する場合は、吸葉剤を使用せず、葉害防止のため田植後1週間程度は水が乾かないように注意する。

### 対策5 適正生育への誘導

~田植後4週間までの中干し開始(遅れず)~

- ①田植後4週間までの中干し開始(遅れず)を実施
- ②6月上旬までの遅い刈り直しと溝振りの実施  
・遅期中干し開始で弱分げつ抑制と根の伸長促進。  
・溝の浅く・手直しによる排水促進。
- ③中干し後の間断かん水の徹底、スムーズな収穫作業に向けた地固め(7月11日頃まで足跡深さ3cm程度に回める)
- ④幼穂形成期の葉色は3.8へ誘導

### 対策6 病害虫防除の徹底

~適期に必ず実施~

- ①大変あまほ場では雑草処理を徹底
- ②一斉刈りによりカメムシ類の密度を抑制する
- ③2回の本田基本防除を確実に実施  
・1回目 ビームエイトスタークルソール  
・2回目 ラフサイドK2フロアブル  
・防除の間隔は10日以上あけない。

### 対策7 登熟期間の穂体活力向上

~生育に応じた追肥と水管理の徹底~

- ①生育状況を確認して的確な追加追肥を施用(穂揃期葉色4.2~4.5)  
・出穂7日前の葉色が4.0以下(緑葉4.2以下)と、まわっている場合は、出穂3日前までに追肥する(全量散布0.7~1.0kg/10a)
- ②幼穂形成期から出穂までは飽水管理(足あとに水が残る程度まで満ったら水を足す)
- ③出穂から20日間は湛水管理を徹底(田面が出ないよう水深3cmを保つ)
- ④刈取7日前までの間断かん水の徹底(足あとの水が無くなったなら水を足す)

### 対策8 適期刈取の徹底

~調粒粒の発生防止~

①積算温度1000~1050℃、初黄化率85~90%での適期刈取  
※高年産の場合は、積算温度950℃、初黄化率80%で刈り始める。

水管理をおろそかにすると、調粒粒発生

◎カントリーの利用を拡大し、米の販売を有利に進めよう!!